

課題情報シート

テーマ名：	近隣住区論に基づく街並みの再現		
担当指導員名：	小谷 敏樹	実施年度：	24 年度
施設名：	近畿職業能力開発大学校 附属京都職業能力開発短期大学校		
課程名：	専門課程	訓練科名：	住居環境科
課題の区分：	総合制作実習課題	学生数：	1
		時間：	20 単位 (360h)

課題制作・開発のポイント

【開発（制作）のポイント】

「ラドバーンの近隣住区論」の考え方をできるかぎり忠実に再現するため、住宅・公共施設・緑地・幹線道路等が一目で分かるよう、その配置・色合いを工夫しました。また、ジオラマの縮尺を 1/500 とし、施設全体配置計画が見やすいよう配慮しました。

【訓練（指導）のポイント】

ジオラマ制作にあたっては、まずCADを使って概略配置計画図を作成させ、その後詳細配置計画の段階では、それぞれの施設・緑地・道路等を、近隣住区論の合理性を的確に表現できるよう配置・色合いに留意するよう指導しました。また、ジオラマ制作にあたっては、細かい手作業であるため作業工程には十分余裕を持たせ、丁寧に作り上げていくよう助言しました。

課題に関する問い合わせ先

施設名： 近畿職業能力開発大学校附属京都職業能力開発短期大学校
 住所： 〒624-0912 京都府舞鶴市上安 1922
 電話番号： 0773-75-4340（代表）
 施設 Web アドレス： <http://www3.jeed.or.jp/kyoto/college/>

課題制作・開発の「予稿」および「テーマ設定シート」

次のページ以降に、本課題の「予稿」および「テーマ設定シート」を掲載しています。

近隣住区論に基づく街並みの再現

近畿職業能力開発大学校京都校
住居環境科

1. はじめに

最近の日本の都市計画ではこれまでの産業中心、経済中心の機能的な街づくりから、人の住む街へ、安全で、快適で、美しい街を造る方向に変わってきている。そこでラドバーンの都市計画を取り上げ、その再現ジオラマを卒業制作のテーマとし、住みよい街づくりについて考えることとした。

2. 「田園都市」との違い

まず、「田園都市」と「近隣住区」との基本的な違いを考えてみる。後者は小学校区を一地域の範囲とし、校舎を中心とした家族間或いは近隣でのコミュニケーションのとりやすい住宅地区の建設がなされ、道路、公園、学校、商店街の計画的配置が工夫されている。一方、前者の田園都市は中世の都市をモデルとし、中央に庭園広場があり、そこから同心円状に公共施設、商店街、住宅地、工業地区の順に、緑豊かで低密度の職住が近隣した独立都市に設計されている。

ラドバーン建設の最初の意図はイギリス流の田園都市建設にあったが、大不況のため規模の縮小が余儀なくされ、規模は小さいが住みやすい「街」に変更されたのである。そして最大のポイントは、田園都市構想が公にされていた時には考えられなかった自動車時代の到来であるといえる。

3. 日本の道路の問題点

狭い土地を工夫して造られた自動車道路の脇の歩行者道路はさらに狭く、道路標識や電柱、さらには小売商店の看板などが道路に溢れ、歩行に困難をきたすこともしばしばあるのが現状である。これは産業用の自動車を利用させることが優先され、国内

で生産された自家用乗用車を利用させるために、急いで道路を建設した結果である。

これらの問題点を鑑み、ラドバーンの都市計画を参考にし、車の動線分離をすることで、これらの問題を解決することとした。

4. 車の動線分離

ラドバーンは、1928年アメリカのニュージャージー州において、建設開始された住宅地である。ここでは、人間と自動車の動線を巧みに分離し、通過交通の流入を排除するため、住区内の道路をクルドサック(袋小路)として、住民は緑道を通して学校や商店に行くことができるように計画されている(ラドバーンシステム)。

5. 日本での近隣住区の例

- ・札幌市あいの里
- ・東京都多摩ニュータウン

など

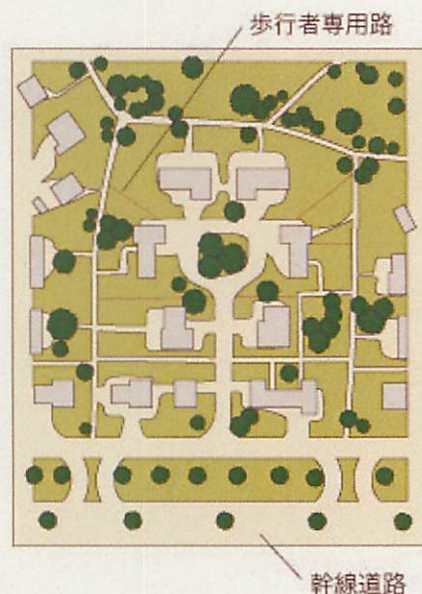


図1 ラドバーンの模式図

6. 近隣住区のおもな特徴

- ・住区の規模は半径400mの小学校区
- ・8,000～10,000人を一つのコミュニティの範囲とする
- ・境界は幹線道路（通過交通排除）
- ・十分なオープンスペースの確保
- ・住区中央に小学校や教会を配置
- ・商業施設は幹線道路に沿うように配置
- ・内部街路は非格子状（通過交通排除）

地域内では通過交通を防ぐために、すなわち速い速度で走りぬける自動車を防ぐためにクルドサック方式が採用されている。ほかの都市との人や物の交流のためには、幅の広い「幹線道路」が住宅地の外側を巡るように設計されている。



図2 計画図面（縮尺1/500）

幹線道路から直接住宅地に侵入できないように立体交差とし分離した。交通量の多いメイン道路は上に作り、住宅地に入ってくる場合には、幹線道路を降りてから目的地に向かうように計画する。

住宅地ではスピードを出しすぎると危険なので、長い直線の道路はあまりつくりず、車道をカーブにする。

7. 研究工程表

表1 工程表

	10月	11月	12月	1月	2月
歴史等文献調査	■				
近隣住区の考え方の整理	■	■			
模型案の決定		■			
設計図作製		■	■		
材料等の発注			■		
模型製作			■	■	■
チェック					■



写真1 街並みのジオラマ

8. 街並みの計画

本研究での計画は以下のようにしました。

- ・縮尺：1/500
- ・利用圏：500～800m
- ・人口：8,000～10,000人
- ・戸数：2,000～2,500戸
- ・住宅地と道路の関係：クルドサック方式
- ・公共施設：小学校、公園、店舗80～100
- ・幹線道路：立体交差とする

9. おわりに

本研究では、近隣住区論を再現することにより、理想的な古来の都市計画の原点思想を深く掘り下げた。このことにより、現代社会での都市交通計画における問題点（特に交通弱者を守る等）を把握し、今後の都市計画策定の一助となることを願うものである。

課題実習「近隣住区論に基づく街並みの再現」

作成日： 11月 30日

科名：京都職業能力開発短期大学校 住居環境科

教科の科目	実習テーマ名	
総合制作実習	近隣住区論に基づく街並みの再現	
担当教員	担当学生	
○科名と主担当となる担当教員名を記載	○リーダーとなる学生の氏名を記載	担当となる学生の氏名を記載
住居環境科 小谷 敏樹		
課題実習の技能・技術習得目標		
ラドバーンの近隣住区論に基づく街並みをジオラマ再現することより、理想的な古来の都市計画の原点思想を考察するとともに、住宅模型等の制作技術を習得する。		
実習テーマの設定背景・取組目標		
実習テーマの設定背景		
近來の日本の都市計画では、これまでの産業中心、経済中心の機能的な街づくりから、人の住む街へ、安全で、快適で美しい街をつくる方向へ変わってきている。そこで、ラドバーンの都市計画を取り上げ、その再現ジオラマを卒業制作のテーマとし、住みよい街づくりについて考察する。		
実習テーマの特徴・概要		
現在日本の道路においては、狭い土地を工夫してつくられた自動車道路の脇の歩行者通路はさらに狭く、道路標識や電柱、さらには小売商店の看板などが道路に溢れ、歩行に困難をきたすこともしばしばある現状である。これは産業用の自動車を利用させることが優先され、国内で生産された自家用乗用車の利用を目的に、急いで道路を整備した結果である。従って、これらの問題点を鑑み、近隣住区論を再現することにより、理想的な古来の都市計画の原点思想を深く考察する。		
No	取組目標	
①	都市計画分野についての歴史等の文献調査を行う。	
②	近隣住区論に基づく考え方の整理を行う。	
③	日本の都市計画、特に道路整備状況の問題点を洗い出す。	
④	近隣住区のユニットを考え、モデル化を行う。	
⑤	近隣住区論に基づき、基本配置計画をまとめる。	
⑥	同じく、詳細平面計画を作成する。	
⑦	住宅、施設、道路、緑地等の制作施工手順を習得する。	
⑧	加工の基本練習を繰り返すことによって、その正確性・スピードを習得する。	
⑨	5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実現に努め、危険予知活動を行いながら訓練を行い、安全管理法を習得する。	
⑩	報告書の作成、および展示用のジオラマやパネルの作成を行う。また、ホリテクビジョンでの発表を行う。	